

千葉大学病院にて子宮内膜異型増殖症・子宮体癌の 妊孕性温存治療をされた患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年2月29日

婦人科

婦人科では、子宮内膜異型増殖症・子宮体癌に対する妊孕性温存療法を行っており、以下に示す方の診療情報などを、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に診療情報等を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2010年1月1日から2021年12月31日を治療開始日として、
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌に対して妊孕性温存療法を受けられた方

1. 研究課題名

当科で妊孕性温存治療により寛解を得た子宮内膜異型増殖症・子宮体癌罹患女性の40歳以降の管理に関する検討

2. 研究期間

2024年承認日～2028年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

挙児希望を有する子宮内膜異型増殖症(AEH)・内膜に限局する子宮体部類内膜癌 G1(EC)患者に対し、妊孕性温存療法として高用量黄体ホルモン療法(MPA療法)が行われます。しかし、MPA療法で寛解後、不妊治療が終了した患者の管理法は定まっていません。本研究の目的は当科でMPA療法を行い40歳以降となったAEH・EC罹患女性の経過を調査し、不妊治療終了後の管理方針、子宮摘出後のホルモン補充療法の現状を明らかにすることです。

患者さんの診療録から情報を収集・解析し、学会・論文等で発表します。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録に記載されている

患者背景：調査時年齢、観察期間

治療結果：生児獲得・再発

患者の現況：黄体ホルモン療法・子宮摘出・経過観察

女性医学的観点：卵巣摘出・子宮摘出後のエストロゲン補充・治療前情報（年齢、進行期、合併症など）

5. 研究組織

研究責任者：千葉大学医学部附属病院 婦人科 甲賀かをり 教授

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、千葉大学医学部生殖医学教室内で厳重に保管します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に情報等を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はございません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等がございましたら、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口：〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院婦人科

医師 奥谷理恵

043(222)7171 内線 5312